

自然の大切さ

H・Y

私は森林について調べてきました。その中で一番調べたものが倒木更新です。木からまた新しい芽が出るなんて、今まで聞いたことがなくて、はじめて聞いた時は、とってもびっくりしました。話を聞いた瞬間、倒木更新をこの目で見てみたいと強く思いました。倒木更新だけでなく、ブナの木も見たことがないので見てみたいと思いました。ブナと倒木更新というキーワードをもとに一日目、二日目のコースを決めました。そのコースはどちらも野鳥の森というブナ林のある森で、自分の知りたいことについて、とても詳しく知りたい内容について話を聞くことができました。二日とも同じ場所なので、一日目に見た植物の名前を覚えていました。けれど、同じ場所でもネイチャーガイドの方が違うので、いろいろな話を聞くことができました。

最初に説明してくれたのは、植物についてです。その中で、おもしろいと思った植物は、ツリフネソウ↓という植物です。どこが変わっているかという、虫が花の中に入りやす



いように、花が形を変えるのです！虫を花の中に入らせると、虫に花粉などが付き、それを飛ばしてもらい新しい芽を出すためだそうです。虫が入りやすいように形を変える花なんて、すごいなあと思いました。やはり、場所によって育つ植物も違うので、いろいろな花を見て帰りたと思いました。

次に見たのは、獣道です。獣道とは、熊や何かの動物が通った後で、草が踏まれているところのことを言います。クマという言葉聞いた瞬間、クマとは会いたくないなあという気持ちが芽生えました。先生がいるからと言って、危険ではないというわけではない。自分の身は自分で守る！このことをしっかりと考えて行動して行きました。ツリフネソウのように花の形を変えるだけでなく、踏まれて、靴の裏に種をつけてもらうという植物や、動物の体にくっついたり、風で吹き飛んだり、という植物もたくさんあります。私はブナと倒木更新についてしか調べていなかったもので、初めてみる植物ばかりです。ですが、植物の花には、毒があるものもあります。外見がきれいだからといって、気軽に触ってはいけないのです。そんな毒のある花の中の一つの例は、水芭蕉です。林間学校に行ったときは、季節があっていなかったもので、花畑のように見ることは出来なかったけど、葉っぱ

は見ることができました。思っていたより大きな葉っぱで、びっくりしました。今度は、ぜひ季節があったときに水芭蕉の花が咲いている時を見に行きたいです。水芭蕉も毒をもっていますが、コースを歩いていると、他にも毒をもっている植物がありました。毒をもっている植物は思ったよりもたくさんあり、トリカブトという植物や、ノコンギクという花も毒があるとはじめて知りました。ノコンギクは運動神経を麻痺させたりするそうです。そして、もうひとつのトリカブトという植物は、昔、弓矢の先にトリカブトからとれた毒をつけ、毒矢として使っていたそうです。そんな昔から、トリカブトがあったなんて、びっくりでした。

これらのことを聞いて、昔の人は、植物をうまく活用していてすごいなあと思いました。微生物と同様に植物もあると思うと、「今までいろんなところに、種が落ちたり飛ばされたりと自分の子孫を残していったからこそ、今も植物はあるんだなあ。」と、たくさんのことを学ぶことができました。植物がある生活と無い生活とではどれだけ環境や生活の仕方が変わるのか。そういう意味では、植物は大切だなと、思いました。いろんなことを学びつつ歩いていると、足もとにたくさんのお木の実が落ちていました。その実を拾ってみると、どこか見たことのあるお木の実で、ネイチャーガイドの先生に聞いてみると、「くるみだよ。」といわれ、びっくりしました。すると、先生はお木の実を拾い上げ半分に分れていることに気がきました。それは、リスが食べたりした後で、くるみに残っていた爪あととも見ることができました。自然にできるお木の実や植物があつてこそ、リスなどの小動物が生きていくことができる。動物がいるからこそ自然を保つことができる。ということを改めて理解することができました。

野鳥の森を歩いているうちに、周りの風景も、ブナのお木へと変わっていきました。初めて見るブナのお木の太さにとってもびっくりしました。それに、道にはブナの赤ちゃんもあって、子供のブナも、大人のブナへと育っていくことを考えると、子孫を増やすことは大切だということがわかりました。けれど、ブナの赤ちゃんや子供は、すべて大人のブナになるというわけではないのです！なぜかというと、ブナの赤ちゃんの周りに大人のブナのお木があると、水分など、赤ちゃんにはまわらず、大人に吸い取られてしまいます。だから、赤ちゃんや子供はすべて、大人のブナになるわけではないのです。育つ場所は大切だということがわかりました。そんな中で勝ち抜いたブナは、年で例えると、180～200歳まで生きるそうです。何年も生きて、年寄りのブナになっていくと根も弱くなっていきます。そこで、私がゼミ学習で一番調べていたもの。それが、倒木更新です。林間学校へ行く前はずっと倒木更新を自分の目で見てみたい。と思っていました。それを、ブナではなかったものの、見ることができました。それは、とても神秘的で、感動的でもありました。けれど、倒木更新も同様、失敗することがあるのです。私は、自分の目で失敗したという場所を見ることができました。そこは、お木もブナもなにも生えていなくて、周りと比べて、

その場所だけ穴があいているようでした。なぜ、失敗してしまったのか。それは、天候などのいろいろな条件を満たせなかったことで、失敗してしまったのだそうです。では、なぜ、ブナの木が生えていないのか。それは、一本の大人のブナの木が倒れた時周りのブナや木などを巻き添えにしたことから、生えていないのだということです。歩いていて周りにブナの木がたくさんあるのが、あたりまえだと思っていたけれど、これらの困難を乗り越えてこそ、ブナが大人になっていき、ブナ林が成り立ったのだと感じました。こんなたくさんの困難があった中、できたブナ林は何かの役に立っているのか。それは、大きな働きをしていることがあります。森のダム。その意味は、雨などの水を大地が吸いこんだり、木を通して、吸い込んだりしてその水を、湖や川に流すという働きです。ゆるやかな流れで水を流すので、いきなり川からあふれ出したりするなんてことはありません。そういう意味でも森のダムは、とても役立っていることがわかります。そんな森のダムは、まだ役立っていることがあるのです。それは、森がなくなったら、携帯が使えなくなってしまう！という重大なことなのです。なぜ森がないと携帯が使えなくなってしまうのか。それは、森のダムによってためられた水は、猪苗代湖に流れます。そして、流れた水は水力発電所へと流されていきます。なので、森のダム（森）がなくては、発電ができなくなってしまう！！ということになります。だから携帯が使えない。ということになります。森のダムや、森、木がないと、どれだけ人の生活に影響するのか。この事を知ってから、思い知らされました。

そんな木の敵、キノコ↓が野鳥の森でも現れました。野鳥の森の中で、私が見たキノコは



倒れた木や大人のブナの木にたくさん生えていたところです。それを見て、私はキノコって悪い奴だなあと思いました。ですが、ネイチャーガイドの先生から思いがけない事実を教えてもらいました。思いがけない事実を知ってから聞く前とは正反対な気持ちになりました。キノコはいい役目をしていて、何も悪いことなんてしていない。そう思いました。その話は・・・私たちの身の回りでも、よくキノコを見かけます。例

えば、家族で登山に出かけたとき、木にキノコが生えているのを私は見かけたことがあります。その時は、木の体力を削り取っている。吸い取っているのではないか。などと私の中では悪者役でした。ですが、決してそうではありません！！キノコは木を土に戻そうとしているのだそうです。それに、元気な大人のブナや子供のブナにくっつくのではなく、もう何年も生きているお年寄りの木にくっつくのです。ですから、決して悪ものではない！ということがわかりました。キノコによって土に戻ったブナの養分は、ほかのブナなどの

栄養にもなるし無駄になったわけではないのです。そんな新しいことを知り、びっくりしました。

自然体験学習を通して学んだことはたくさんありました。ゼミ学習で一番頑張っていたブナの木や倒木更新を、自分の目で見ることができ、森はたくさんの方に役立っていることを改めて学びました。自分の身近にある植物や木、自然を大切にしていこうという気持ちが大きく芽生えました。これからも、ゼミ学習で学んだことは忘れずにして、身の回りの自然を大切にしていきたいと思います。そして、今回学んだことを普段の生活に生かしていきたいです。